

課題は

富士山をめぐるさまざまな課題について、「富士山学」を専門とする渡辺豊博・元都留文科大
学教授＝写真＝に話を聞いた。



＊

富士山の抱える大きな問題の一つが、複数の自治体や国の役所などが、それぞれの立場から管理に携わっていることです。各登山



ご来光を目指して富士山頂に向かって延びる登山者の列。明るいヘッドランプが、渋滞する人影を浮き上がらせた(2013年7月)

関係機関多く 調整に時間

ルートは登山口のある静岡、山梨両県が管理しています。また、8合目以上は「富士山本宮浅間大社」という神社の所有地になっていて、山頂付近は県境も定められていません。

さらに、「富士箱根伊豆国立公園」の一部でもあることから環境省が、世界文化遺産に登録されていることから文化庁が…と、国の複数の機関も関わっています。関係機関が多い分、何をするにも時間がかかり、一元的な管理は難しくなります。「富士山の保全に責任を負うのは誰なのか」がわかりにくいのは、根本的な課題だといえるでしょう。

また、富士山保全協力金の支払いは、あくまで任意で、登山者の心がけに頼っています。登山者数の上限目標も、文字通り目標にすぎず、登山者数を制限する力はありません。

現状をふまえると、美しい富士山を守っていくためには、登山者はもちろん、私たち一人一人が意識を高く持つことが欠かせません。中高生の皆さんには、富士山の自然環境や文化などについて学び、ぜひ「自分ごと」として、富士山の環境保全や望ましい登山のあり方について考えてみてほしいと思っています。